

昭和七年六月十五日 (月六回) 五月十日十五日二十日廿五日卅日
 (第二種郵便物認可) (發行日)

賀正

計開新幣常所行發
 九五助南助年野島縣
 次 藤 藤 伊 人行發
 一 進 古 四 進 名 小 野 島 縣
 (錢十五行一科告廣)

……はリスク
堂生資
 町 濱 名 小
 番 七 四 一 話 電

賀正 店主 關内仁平

年頭所感



昭和十年の新春を迎ふるに當り
 謹て賀意を表す

本年は西暦一千九百三十五年所謂三十五六年の國際的重大なる國家盛衰の岐路とも云ふべき危機に直面して居る。即ち國家非常時である時恰も本年は亥年であり、亥は猪に通じ天は我等に猪突的國難突破を暗示せるもの如し、我れに苦難を與へよ、以て心膽を煉らん、の意氣こそ非常時日本國民の擔せられたる試練でなければならぬ、内に顧れば政治に、經濟に、思想に、宗教教育に何れも新局面を展開すべき非常時に當面して居るのである、行くべき方途に迷ひる行路者の姿である、内外共に非常時である、此の難局を突破し開拓するものは國民銘々に荷せられた義務であると共に、權利なのである、昭和十年の非常時は國民齊しく亥年に因み、猪突的に勇往邁進すべきであらう、此の意義ある新春を迎ふるに當り後援者諸君各位の健康と幸福を希へ誤らざる針路に猪突的精進を祈り、一言所感の一端を述べて年頭の賀詞となす

昭和十年元旦

主幹 伊藤 隆次

謹賀新年

小名濱町長 小野 晋平
 同助役 高木 保
 同収入役 樋口 速雄
 庶務課長 黒澤 島雄
 外役場吏員一同

小名濱町會議員 (順は東より)

藤野 崎重 野崎 昇重 佐野 丞次 小野 晋平 近立 兵衛 江崎 雄七 西村 猛郎 福村 太郎 岡村 重太郎 國岡 甚太郎 高木 伊三郎 飯塚 淨伊 飯塚 龜之衛

内務省小名濱修築事務所

福來 橋十郎
 高野 梅藏
 中野 善藏
 利泉 省一
 光藤 助

福島縣水産試験場

中戸 正夫
 船谷 義光
 岩谷 鶴次
 渡邊 榮造
 小藤 貞造
 佐藤 貞造
 木村 貞造
 津野 貞造
 蓮見 貞造
 堤見 貞造
 長瀬 貞造
 大塚 貞造

小名濱小學校

西山 直三郎
 西村 喜三郎
 石井 定三郎
 小島 源七郎
 内山 伊吉郎
 後田 義之助
 小野 正松
 松原 美雄

小名濱學務委員

小名濱 磯一雄

小名濱漁業組合

組合長 水野 政次郎
 事務長 渡邊 勲哉

磐城水産工業株式會社

支店長 初川 茂藏
 本社 電氣株式會社小名濱支店

社長 小野 晋平
 専務 福田 伊太郎
 魚市場主任 近藤 安雄
 魚市場主任 佐藤 三雄
 兼油部主任 中野 代三
 中野 代三

磐城海岸軌道株式會社

社長 草野 良太郎
 支那人 西丸 猛

小名濱運送株式會社

小名濱水産株式會社
 専務 加納 五郎
 電話 C 六番

平製株式會社

社長 木村 清治
 専務 松本 一郎

櫻井

株式會社 七十七銀行 支店 小名濱出張所
 所長 櫻井

鹿島村小學校校移轉改築 工事順潮に進展

志賀村長の精力は絶倫

鹿島村は地形上より小學校基礎に村人の精進めざま
校移轉問題は歴代の村長もしく一月十日頃には校舎起
手を焼き一つの宿題として工の運びとなる豫定にあり
志賀村長に至りしが活動的にして年度内の三月未迄に
を有する志賀村長は關係大は落成の見込と聞く其間志
字を行脚し有力者と膝をま賀村長の努力奮闘は文字通
じい説得に努め殆ど舉村的りて縣廳の諒解に關係方面
賛成の下に走熊字中島地内の説得に精力絶倫の志賀村
に移轉改築することになり長にして初めて此の大事業
縣に其認可と八千圓の起債を完成するものと村民は
認可を申請中の處何れも感謝の意を表して居
可指令に接し去る十一月二
十三日地鎮祭を執行した。
爾來三千五百坪敷地の工

四十の手習

二日前九時本社内水室神
社集合、神官修成參拜新年
交賀、十時よりマルトモ樓
上にて第八回通常總會、
第四回表彰式を舉行す、十
一時より本社會議室に於て
新年宴會並に懇親會を催す
管である、因に親交會長に
本社専務松本一郎氏副會長
に小名濱工場長馬目安一氏
である。

親交會

通常總會一月二日
平製氷従業員より成る親
交會にては恒例に依り一月

社告

現住所 平町城山一三
右記の吉田君が記者とし
て入社しました。同君は
過順の經歷も立派であり
加ふるに人格識見に申分
の御後援を願います
十二月二十八日
夕常磐新聞社

謹賀新年

鈴木 榮	野崎 長次郎	馬 上 喜 一	喜久屋 船自動車部	小名濱製材所	佐藤 時計店	黄金屋 金物店	小名濱信用 利用組合	大平 材木店	水野 徳次郎	松 月	三河屋酒店	西野屋輪船店
------	--------	---------	-----------	--------	--------	---------	------------	--------	--------	-----	-------	--------

一條藥店
産婆 一條美津子

加藤屋商店
砂糖、小麥水飴、
雜穀、小麥水飴、
雜穀、小麥水飴、
雜穀、小麥水飴、

馬 上 與 八 商店
良削製造元
小名濱本町

柳 内 房 吉
酒長生

小川 爲 八 郎
警城無盡商會小名濱代理店

丸 八 鐵 工 場
機械製造修繕

野 崎 貞 行
漁業海産物

善 方 長 作
清湯の湯

小島履物店
ゴム靴の専門店
草履製造

丸一屋百貨店
日用品、雜貨

柴田彦次郎商店
呉服、洋品、足袋

釜の湯 若松清
全副會計顧問
浪大和家
花ま亭

小磯商店
精米部
貨物自動車部
電話二九番

赤津政廣
鈴木寫眞館
美術寫眞
精速

藤 社 大 一
藤原川改修工事事務所
所長 高 浦 孝 助

馬目自動車部
馬目右衛門



小名濱名士 織込の歌

左の様な寄稿があつたらから罪のない御正月の御笑草として掲載しました関係者は
好く注意して読んで下さい
何れも姓名を織込で居ります(記者)

亥の元旦を祝して

元旦は氣も爽やかに、おたやかに
願ひ叶ふよ今年亥年

町長殿

小野が身は富ヶ浦なる名主松

枝葉も繁り根もはりて
晋平なにか町の轉機(天氣)は

助役殿

高き山木あるが爲めに實なり

保つ信用も誠實が基

樋の口より出る若清水

(カケトイ)

飲むのも速く胸治る

町會議員殿一同

小名町も濱は歸て人氣呼ぶ

長太郎手腕で町を明るく

立花の屋敷は八嶋あがり綱

雄々出船七五三は大漁

佐くならば川邊に咲きな梅の花

榮冠如何に次郎番發

福積んだ馬の尻尾に木が降り

伊太郎幸領で如何に手綱を

近藤出て町の仕事を健實に

安雄の案は如何に採用

西丸を振つて良くすか悪くすか

猛の度胸が運を開くや

小松原通つて来れば重荷挽く

後押し兵衛如何に助けるや

野は廣し崎の燈りを目標に

頑んで町の爲め計り助く小民を任侠男が

村普請上亦た下も人天出す

江尻家は甚當にして御家柄ら

太郎の度量うるは反物

高木ぞと自慢心と茶目すれば

惣治の技量已れ下げるぞ

掘越の紀念に植ゐた五葉の松

定まる御代は吉と安泰

藤の鉢社宅の庭の呼物よ

重役愛好吉と花白

飯塚の仕事は町の文庫倉

藤右門さん何れを開かん

岡が家の井戸水命を養ふし

忠しき義理を太く實行

吉田する町も我が家も

勤勉に徳之難儀を助く浦島

岡山の揃ふて延びる若松も

重喜の手入れ嵐來るとも

野は廣し崎についたる目標も

昇る朝日と小名濱は

太郎の力量で町を住み良く

新聞社長

伊ち悪な藤の根性を見る勿れ

隆次の腹は奇麗さつぱり

組頭

松本は火防の主町の爲め

徳次郎如何に火消裁量

水揚げが澤山あれば野や畑も

政に干渉と早替り

漁業組合長

次郎外交雨か風か

平

町

片倉製糸株式会社

山野邊東次郎

警務士

井上貞次郎

警務士

東部電力平營業所

關内藥局

丸本商店

家具は

石城郡銀行組合

恭賀新年

和洋金物問屋釜屋商店
諸橋守次
電話九・九九番

洋品小間物商 大黒屋勝次商店

なかや洋服店 永山小平

荒物商 大屋商店

關内正一

平庶民金庫

西村屋藥局

山崎合名會社

櫛田榮太郎

平運輸株式會社

諸橋外科醫院

木村病院

三井吳服店

福島貯蓄銀行平支店

石城郡内各學校長會

平藝妓屋組合

平三業保健組合

磐城共濟病院

平料理屋組合

高久病院

鶴屋商店

堀江工業株式會社

江口忠一

平 小名濱乘合

野崎自動車合資會社

警務無盡商會

小宅嘉久治

内科・外科

花柳病科

小兒科

會田醫院

小名濱町上横町

眼科専門 鈴木眼科醫院

本院 植田町

分院 小名濱町古港

口腔外科

齒科一般

池田眼科醫院

小名濱町

外科専門

レントゲン科

上田外科醫院

平町 電話二六

内科・外科

小兒科

花柳病科

平川醫院

江名町 電話二六

内科・外科

耳鼻咽喉科

宮津醫院

小名濱 電話一四二番

内科・小兒科

花柳病科

佐瀨醫院

小名濱 電話一三五

眼科専門

小名濱眼科醫院

小名濱町

内科小兒科

産婦人科

花柳病科

久保田醫院

小名濱町 電話二二番

口腔外科

齒科一般

木田齒科醫院

小名濱町 電話一〇五

内科・小兒科

外科花柳病科

レントゲン科

中村醫院

▲病室の設備あり、小名濱町電話一八番